

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) < 動物(哺乳類) >

【国外由来の外来種】

対策優先度の要件は緊急対策外来種・重点対策外来種のみ記入

2015.03.26

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 被害の深刻度・実効性・実行可能性	特定外来種/旧要注意種	和名	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等		
								定着可能性		生態系被害		分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散	生物	導入	融合	交雑	捕食									繁殖	気候
								生物	導入	融合	交雑	捕食	繁殖																		
定着を予防する外来種(定着予防外来種)																															
侵入予防外来種																															
1	未定着	侵入予防外来種			特定外来	ジャワマングース	<i>Herpestes javanicus</i>																ベトナム、カンボジア、ラオス、タイ、マレーシア、インドネシア、シンガポール、ミャンマー原産。		森林、草地、農耕地	利用に関する情報は得られなかった。		日本に定着しているマングースは本種であると考えられていたが、調査の結果、フィリピンマングースとして別種として扱うべきことが明らかになった。	特定外来、W100:日本・IUCN	Veron et al.(2007)	
その他の定着予防外来種																															
2	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	フクロギツネ	<i>Trichosurus vulpecula</i>																オーストラリア原産。		森林性、人に入り込むこともある。	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	牛結核や寄生性線虫の伝播。	特定外来、W100:IUCN、GISD、各県:北海道	日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編著)(2008)	
3	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	カニクイザル	<i>Macaca fascicularis</i>																東南アジア原産。パラオ、モリシア、サモア等の島嶼に侵入。		森林、マングロープ等	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、学術研究用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	ニホンザルとの融合・交雑、寄生虫や病原菌の伝播、農業被害。1971年に伊豆諸島地内島に放されて野生化した。1995年ごろに消滅。	特定外来、W100:IUCN、GISD	自然環境研究センター(編著)(2008)、山田ほか(2011)	
4	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	シママングース	<i>Mungos mungos</i>																アフリカ原産。		森林、草地等	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。		特定外来	Wilson & Mittermeier (eds.)(2009)	
5	未定着	その他の定着予防外来種			旧要注意	フェレット	<i>Mustela furo</i>																ヨーロッパ産のヨーロッパクナギタチを家畜化。北米、ニュージーランドに侵入。		ヨーロッパ産のクナギタチは、森林、草原、耕作地	ペットとして大量に流通し、飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	生態系等への影響に関する知見の集積が必要。	要注意、GISD、各県:北海道、千葉、兵庫、愛媛	自然環境研究センター(編著)(2008)	
6	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	カニクイアライグマ	<i>Procyon cancrivorus</i>																中南米原産。		水辺の森林	かつてアライグマに混入してペットとして輸入されていた可能性がある。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	アライグマと同様の被害を及ぼす可能性。	特定外来、各県:滋賀	自然環境研究センター(編著)(2008)	
7	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	アキシスジカ(アキシスジカ)属	<i>Axis spp.</i>																インド、スリランカ原産。東ヨーロッパ、北米、南米、ニューギニア等に侵入。		森林、草原	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	ニホンジカとの融合・交雑の可能性が指摘されている。本属には計4種が含まれる。	特定外来、GISD、各県:京都(シカ亜科として)	自然環境研究センター(編著)(2008)	
8	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	ダマシカ属	<i>Dama spp.</i>																ヨーロッパ、アジア原産。世界各地に侵入。		森林、草原	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	ニホンジカとの融合・交雑の可能性が指摘されている。	特定外来、各県:京都(シカ亜科として)	自然環境研究センター(編著)(2008)	
9	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	シフゾウ	<i>Elaphurus davidianus</i>																中国原産。		沼地、湿地	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	野生の個体群は絶滅した国際的な希少動物で、動物園で飼育されているのみ。現状では野外に逸出する可能性は低い。飼育下ではシカ属との交雑例が報告されている。	特定外来、各県:京都(シカ亜科として)	自然環境研究センター(編著)(2008)	
10	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	タイリクモモンガ	<i>Pteromys volans</i>																ロシア、カザフスタン、中国東北部、朝鮮半島原産。		森林	かつてはペットとして流通し、飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	エゾモモンガ <i>P. v. orii</i> は本種の亜種。	特定外来、各県:北海道、京都	自然環境研究センター(編著)(2008)	
11	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	トウハイイロリス	<i>Sciurus carolinensis</i>																北米原産。ヨーロッパ、南アフリカ、オーストラリアに侵入。		森林、公園	かつてはペットとして流通し、飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	リスボックスウイルスの媒介、樹皮剥ぎ被害。	特定外来、W100:IUCN、GISD、各県:北海道	Gurnell et al.(2006)、自然環境研究センター(編著)(2008)	
12	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	フィンレイソンリス	<i>Callosciurus finlaysonii</i>																ベトナム、タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー原産。		原生林、二次林、植林地や公園など、多様な森林環境	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示・学術研究用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	静岡県浜松市では、クリハラリスと思われる個体からフィンレイソンリスのミトコンドリアDNAゲノムが確認されている。	特定外来	蔵本(2009)、Francis, M. C.(2008)	
総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)																															
緊急対策外来種																															
13	定着初期/限定分布	緊急対策外来種			特定外来	タイワンザル	<i>Macaca cyclops</i>																台湾原産。	伊豆大島、大根島(静岡県)、和歌山	平地から亜高山帯までの樹林	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、展示用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	ニホンザルとの交雑、農業被害。	特定外来、W100:日本・IUCN、各県:青森、東京、静岡、和歌山	日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編著)(2008)、山田ほか(2011)	
14	定着初期/限定分布	緊急対策外来種			特定外来	アカゲザル	<i>Macaca mulatta</i>																南アジア-インドシナ北部、中国中南部原産。	南房総	湿地林-半乾燥地まで様々な森林。房総では常緑広葉樹林と耕作地が混在した丘陵地。	特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、学術研究用等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	房総半島ではニホンザルとの交雑が進んでいる。寄生虫や病原菌の伝播、農業被害。	特定外来、GISD、各県:千葉	自然環境研究センター(編著)(2008)、山田ほか(2011)	
15	分布拡大期-まん延期	緊急対策外来種				ノネコ(イエネコの野生化したもの)	<i>Felis silvestris catus</i>																中東原産のリビアヤマネコを家畜化。汎世界的に分布。	日本全国	都市、農村、森林	イエネコはペットとして大量に飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	在来ヤマネコのいる対馬、西表島では感染症の伝播の可能性が指摘され、実際にツシマヤマネコへのFIVの感染が確認されている。奄美大島におけるアマミノクロウサギ、沖縄島やんばる地域におけるヤンバルクイナやノグチゲラ等国内希少野生動物種を含む希少種の捕食が確認されている。御蔵島ではオオミズナギドリを捕食し、被害を与えていることが確認されている。	W100:IUCN、GISD、各県:北海道、千葉、京都、兵庫、鳥取、沖縄	日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編著)(2008)、山田ほか(2011)	
16	定着初期/限定分布	緊急対策外来種			特定外来	フィリマンングース	<i>Herpestes auropunctatus</i>																中東、南アジア、東南アジア、中国南部等原産。	沖縄島、奄美大島、鹿児島県本土	森林、草原、農地等	かつてハブ及び野鼠を防除する目的で輸入、放逐された。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	奄美大島でアマミノクロウサギ、沖縄島でヤンバルクイナ等、多くの絶滅のおそれのある種に影響を与えている。日本に侵入した個体群はかつてはジャワマングース <i>H. javanicus</i> とみなされていた。	特定外来、W100:日本・IUCN、GISD、各県:鹿児島、沖縄	日本生態学会(編)(2002)、阿部(監)(2008)、自然環境研究センター(編著)(2008)、山田ほか(2011)、亘(2011)	

【国内由来の外来種】

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 被害の深刻度 実行可能性	特定外来 / 旧要注 意	和名	学名	選定理由	評価項目												分布	問題となっ ている 地域	生息環境など	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等			
								定着可能性		生態系被害		分布拡大		重要 地域	人体	経済 産業	利用	付着 混入												
								生物	導入	競争	交雑	捕食 摂食	繁殖						気候											
総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)																														
緊急対策外来種																														
1	国内由来の外来種	緊急対策外来種			伊豆諸島などのニホンイタチ	<i>Mustela itasis</i>	,	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本州、四国、九州、 周辺島嶼	北海道、伊豆諸 島、南西諸島	農耕地、森林、 草地等	かつてネズミ駆除や毛皮目的で導入されたと ころが多い。	逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。		奥尻島、鹿兒 島、沖縄	日本生態学会 (編) (2002)、阿部 (監) (2008)
重点対策外来種																														
2	国内由来の外来種	重点対策外来種			奥尻島・屋久島のタスキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	,	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北海道、本州、四 国、九州、佐渡、瀬 戸内諸島、香岐、 奄、天草等、アジア 東部。	奥尻島、屋久島	住宅地、農村、 森林等	利用に関する情報は得られなかった。	-	奥尻島で、地表性甲虫類に影響を与えている。	各県：鹿兒島	堀(2004)、阿部 (監) (2008)
3	国内由来の外来種	重点対策外来種			北海道・佐渡のテン	<i>Martes melampus</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	本州、四国、九州、 淡路島、対馬	北海道、佐渡	森林等	かつて、毛皮用に飼養されたが、現在の利用 はないものと思われる。	逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。	北海道ではエゾクロテンとの置き換わりが進行してい る。佐渡では野生下トキの繁殖期における攪乱要因の 一つとして挙げられている。	各県：北海道	日本生態学会 (編) (2002)、阿部 (監) (2008)
4	国内由来の外来種	重点対策外来種			対馬以外のチョウセンイタチ	<i>Mustela sibirica</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	対馬	関西以西の本 州、四国、九州	都市、住宅地、 農耕地、森林 等	毛皮目的で導入されたと考えられる。	逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。		W100：日本、各 県：滋賀、京都、兵 庫、鳥取、愛媛、熊 本、鹿兒島	日本生態学会 (編) (2002)、阿部 (監) (2008)
5	国内由来の外来種	重点対策外来種			徳之島などのニホンイノシシ	<i>Sus scrofa leucomystax</i>	,	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	本州、四国、九州、 淡路島	奄美大島、徳之 島、沖永良部 島、沖縄島など	森林、農耕地	家畜、狩猟目的で導入されたと考えられる。	逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。	奄美大島、徳之島、沖縄島では、亜種リュウキュウイ ノシシ <i>S. s. niukuanus</i> との交雑が疑われる例が見つかっ ている。 対馬では在来のイノシシが絶滅した後、由来不明のイ ノシシが放され農業被害等が問題となっている。	その他	阿部 (監) (2008)
6	国内由来の外来種	重点対策外来種			新島などのニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	,	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	ベトナム・極東ア ジア、北海道、本 州、四国、九州	新島、香岐、粟 島	森林等	かつて観光目的で導入された島もあるが、現 在は利用されていない。	逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。	1969年に地内島(新島の西1.5km)に観光目的で放した シカが泳いで新島に渡ったことに由来する。	その他	阿部 (監) (2008)

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) < 動物(鳥類) >

【国外由来の外来種】

対策優先度の要件は緊急対策外来種・重点対策外来種のみ記入

2015.03.26

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 被害の深刻度・実効性・実行可能性	特定外来 / 旧要注意	和名	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等			
								定着可能性		生態系被害		分布拡大		重要地域	特に問題となる被害 人体・経済産業	逸出・拡散 利用	付着 混入	生物	導入	競合	交雑									捕食 摂食	繁殖	気候
								生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	繁殖																			
定着を予防する外来種(定着予防外来種)																																
その他の定着予防外来種																																
1	未定着	その他の定着予防外来種		旧要注意	シリアカヒヨドリ	<i>Pycnonotus cafer</i>																	インド、パキスタン、中国南部、ブータン、ミャンマー、タイ北部等原産。オーストラリア、太平洋諸島等に侵入。	都市、農耕地、森林等	ペットとして飼養されている可能性がある。	ペット用の安易な輸入や飼養は控えることが望ましい。また逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	神奈川県での観察事例がある。	要注意、GISD、W100:IUCN	Christopher Lever(1987)、自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012)			
2	未定着	その他の定着予防外来種		旧要注意	外国産メジロ	<i>Zosterops</i> spp.																	朝鮮半島、台湾、中国、ベトナム、フィリピン等原産。	都市、農耕地、森林等	ペット、鳴き合わせ等の愛玩目的で飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	日本産メジロの別亜種のヒメメジロ <i>Z. japonicus simplex</i> 、チョウセンメジロ <i>Z. erythropleurus</i> 、ハイパラメジロ <i>Z. palpebrosus</i> 等を含む。輸入されていた個体の多くは、密猟された日本産と入れ替えて販売されていたという。感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律における動物の輸入届出制度により、高病原性インフルエンザの発生国や地域からの輸入が禁止されている。	要注意、各県・京都	自然環境研究センター(編者)(2008)			
総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)																																
緊急対策外来種																																
3	分布拡大期-まん延期	緊急対策外来種		旧要注意	インドクジャク	<i>Pavo cristatus</i>																	インド、スリランカ、パキスタン、バングラデシュ等原産。	福島、埼玉、滋賀、三重、愛媛、小豆島、大隅諸島、先島諸島	森林、草原、農耕地	各地で観賞用に飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	先島諸島では駆除が行われている。	要注意、各県・徳島・愛媛・沖縄	自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012)		
4	分布拡大期-まん延期	緊急対策外来種		特定外来	カナダガン	<i>Branta canadensis</i>																	北米原産。ヨーロッパ、ニュージーランド、オーストラリアに侵入。	茨城、神奈川、山梨、静岡、湖沼、河川等	展示目的等で飼養されているが、平成26年8月より特定外来生物に指定され、輸入・飼養等が規制されている。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	在来種のシジュウカラガン(<i>Branta hutchinsii</i>)や他の在来ガン類と交雑する可能性が危惧されている。	特定外来、GISD、各県・千葉	Christopher Lever(1987)、自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012)			
重点対策外来種																																
5	分布拡大期-まん延期	重点対策外来種		特定外来	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i>																	中国中・西・南部、ラオス北東部、ベトナム北部、台湾原産。ハワイに侵入。	本州、四国、九州	丘陵地、平野の森林	かつてはペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	分布拡大中。	特定外来、W100:日本、各県・熊本	日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012)		
6	分布拡大期-まん延期	重点対策外来種		特定外来	カオグロガビチョウ	<i>Garrulax perspicillatus</i>																	中国中南部、ベトナム原産。	岩手、群馬、埼玉、東京、神奈川	森林、農耕地	かつてはペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。		特定外来	自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012)		
7	分布拡大期-まん延期	重点対策外来種		特定外来	カオジロガビチョウ	<i>Garrulax sannio</i>																	インド北東部、中国南部、東南アジア等原産。	北関東-千葉	森林、住宅地、公園等	かつてはペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。		特定外来	自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012)		
8	分布拡大期-まん延期	重点対策外来種		特定外来	ソウシチョウ	<i>Leiothrix lutea</i>																	ヒマラヤ西部-ミャンマー西部、中国中部-南東部、インドアッサム州-ベトナム北東部原産。	本州、四国、九州	森林(主に竹林、笹藪)	かつてはペットとして飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	分布拡大中。複数の国立公園内で確認されている(雲仙天草国立公園、富士箱根伊豆国立公園等)。	特定外来、W100:日本、GISD、各県・京都・兵庫・鳥取・徳島・熊本・宮崎・鹿児島	日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012)		
その他の総合対策外来種																																
9	定着初期/限定分布	その他の総合対策外来種		旧要注意	コリンズズラ	<i>Colinus virginianus</i>																	アメリカ中東部-メキシコ等原産。	関東-近畿、四国	森林、草原、河川敷	猟犬の訓練用として放鳥された。	猟犬訓練のための放逐・放置は慎むべき。	定着実態に関する知見の集積が必要。	要注意、各県・京都・徳島	自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012)		
10	分布拡大期-まん延期	その他の総合対策外来種			コウライキジ(大陸産亜種)	<i>Phasianus colchicus karpowi</i>																	中国南東部、朝鮮半島原産。種としてはヨーロッパ、北米、ハワイ、オーストラリア等に侵入。	北海道、本州、四国、九州、大隅、奄美・沖縄・先島諸島	草原	狩猟目的で放鳥された。	新たな放鳥は慎むべき。	北海道では生息数減少。2013年、石垣市では農作物被害が拡大(新聞記事)。在来キジとの交雑個体らしき個体も確認されている。	各県・北海道・千葉・愛媛・鹿児島・沖縄	日本生態学会(編)(2002)、川上ほか(2012)		
11	定着初期/限定分布	その他の総合対策外来種			コブハクチョウ	<i>Cygnus olor</i>																	ユーラシア原産。北米、ニュージーランド、オーストラリア、南アフリカ等に侵入。	北海道ウトナイ湖(繁殖地)、茨城霞ヶ浦(越冬地)、鹿児島鹿瀬田池、その他多くの府県で確認	湖沼、河川等	愛玩目的で屋外で飼養されることが多い。	逸出しないよう、十分な管理が望まれる。	オオヒシクイと生息場所を巡る競合及び採食の生態系への影響が指摘されている。飼育個体は翼を切って飛べないようにした上で半ば放し飼いにされることが多い。鹿児島県豊後田池(ラムサール条約登録湿地。泥炭植物群落は国指定天然記念物)では、観光目的で放し飼いにされているが、2014年にこのうち20羽余りが周辺の河川等へ逸出し、生態系への影響が懸念されている。	各県・北海道・青森・千葉・愛知・京都・鳥取	川上ほか(2012)、朝日新聞記事(2014)		
12	分布拡大期-まん延期	その他の総合対策外来種		旧要注意	クロエリセイタカシギ	<i>Himantopus mexicanus</i>																	アメリカ西・南部、中米-ペルー南西部、ブラジル北西部、西インド諸島等原産。	奈良、京都、大阪	湿地、干潟、水田	ペットとして飼養されている可能性がある。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	奈良県で個人によって飼育増殖された個体が故意に多数放鳥された。大阪ではセイタカシギとの交雑が起きている可能性が指摘されている。	要注意、各県・京都	自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012)		
13	定着初期/限定分布	その他の総合対策外来種			ワカケホンセイインコ	<i>Psittacula krameri manillensis</i>																	インド中・南部、スリランカ原産。ヨーロッパ(イギリス、ドイツ、ベルギー、オランダ等)、アラブ諸国、北米、ハワイ等に侵入。	東京、千葉、神奈川、愛知、京都、広島で繁殖した記録があるが、近年は、東京の南西部や大田区、神奈川の一部でのみ確認されている。	都市、森林等	愛玩目的として、ツキノワインコの名称で販売飼養されている。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	原産地のインドでは、農作物の害鳥として知られており、トウモロコシの苗やソルガムきび、ゴマ、小麦、大麦、芥子菜、落花生、マンゴー、グアバ、イチジク、ブドウ、モモ、ヒマワリ、ひよこ豆、ザクロ、貯蔵穀物など様々な作物への被害が記録されている(Lever, 1987)。	その他	Christopher Lever(1987)、日高(1997)、川上ほか(2012)		
14	分布拡大期-まん延期	その他の総合対策外来種			シロガシラ	<i>Pycnonotus sinensis</i> ssp.																	台湾原産。八重山諸島のものは在来亜種。	沖縄諸島	林縁、農耕地、草原	ペットとして飼養されている可能性がある。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	沖縄島周辺に定着している個体群は、台湾に自然分布する亜種タイワンシロガシラ <i>P. s. formosae</i> と考えられている。	W100:日本、各県・沖縄	自然環境研究センター(編者)(2008)、川上ほか(2012)		
15	分布拡大期-まん延期	その他の総合対策外来種		未判定	ヒゲガビチョウ	<i>Garrulax cineraceus</i>																	中国南部-ミャンマー-インド原産。	愛媛、高知	森林	ペットとして飼養されている可能性がある。	逸出しないよう十分注意し、放逐は厳に慎むべき。	高知県内では、複数の県立公園内(石工山、横倉山等)で確認情報が報告されている。今後の分布の拡大に注意が必要。	未判定外来	濱田ほか(2006)、川上ほか(2012)		

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) <動物(爬虫類)>

【国外由来の外来種】

対策優先度の要件は緊急対策外来種・重点対策外来種のみ記入

2015.03.26

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 被害の深刻度 実効性 実行可能性	特定外来 /旧要注意	和名	学名	定着理由	評価項目												原産地・分布	日本での分布	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害		分布拡大		重要 地域	特に関心 となる被害 種	経済 産業	逸出・拡散 利用	付着 混入									
								生物	導入	競合	交雑	捕食 摂食	繁殖						気候								
定着を予防する外来種(定着予防外来種)																											
その他の定着予防外来種																											
1	未定着	その他の定着予防外来種		旧要注意	ワニガメ属	<i>Macrochelys</i> spp.												北米		河川、湖、池沼、湿原等	ペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	動物愛護管理法で特定動物(危険な動物)に指定されており、飼養には許可が必要。	要注意、各県: 愛知、滋賀、京都、兵庫、愛媛、佐賀	第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、安川(2005)、自然環境研究センター(編著)(2008)、小林(2009)		
2	未定着	その他の定着予防外来種			ニシキガメ属	<i>Chrysemys</i> spp.												北米		河川、池沼、湿地等	ペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	アカミミガメが規制された場合に、代用として輸入量が増加するおそれがあるため留意が必要。	その他			
3	未定着	その他の定着予防外来種		旧要注意	チズガメ属3種(ミシシッピチズガメ、フトムチズガメ(サビーンチズガメを含む)、ニセチズガメ)	<i>Graptemys</i> spp.												北米		河川、池沼、湿地等	ペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	ミシシッピチズガメ <i>G. kohnii</i> 、フトムチズガメ <i>G. ouachitensis</i> (サビーンチズガメ <i>G. sabinensis</i> を含む)、ニセチズガメ <i>G. pseudogeographica</i> の3種。アカミミガメが規制された場合に、代用として輸入量が増加するおそれがあるため留意が必要。	要注意	第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、安川(2005)、自然環境研究センター(編著)(2008)、USGS-NAS		
4	未定着	その他の定着予防外来種		旧要注意	クーターガメ属	<i>Pseudemys</i> spp.												北米、中米		河川、湖沼、湿地、汽水域等	ペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	ほとんどの種がペットとして輸入されている。特にベニンシュラクーター <i>P. peninsularis</i> の輸入が多く、安価に販売されている。アカミミガメが規制された場合に、代用として輸入量が増加するおそれがあるため留意が必要。	要注意	第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、安川(2005)、自然環境研究センター(編著)(2008)		
5	未定着	その他の定着予防外来種			チュウゴクセマルハコガメ	<i>Cuora flavomarginata flavomarginata</i>												中国、台湾		森林とその周辺、河川の周辺、沼沢地、湿原等	ペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	八重山諸島に亜種ヤエヤマセマルハコガメ <i>C. f. evelynae</i> が分布。沖縄島ではしばしば野外で個体が確認され、定着している可能性もあるが、これらの亜種は確定されていない。本亜種の属するイシガメ科は属間交雑のおそれもあるため、特に留意が必要。	その他	日本生態学会(編)(2002)、Ota et al.(2004)、安川(2005)		
6	未定着	その他の定着予防外来種		旧要注意	ハナガメ	<i>Mauremys sinensis</i>												中国、台湾、ベトナム		河川、池沼等	ペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	遺棄されたと考えられる個体が野外で見つかったことがある。アカミミガメが規制された場合に、代用として輸入量が増加するおそれがあるため留意が必要。	要注意、各県: 愛知	第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、安川(2005)、自然環境研究センター(編著)(2008)		
7	未定着	その他の定着予防外来種		旧要注意	アメリカスッポン属	<i>Apalone</i> spp.												北米、中米		河川、池沼、湿地等	ペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	フロリダスッポン <i>A. ferox</i> 、スペーススッポン <i>A. mutica</i> 、トグスッポン <i>A. spinifer</i> が国内で多数販売されている。	要注意、各県: 北海道	第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、安川(2005)、自然環境研究センター(編著)(2008)、USGS-NAS		
8	未定着	その他の定着予防外来種		特定外来	ブラウンアノール	<i>Anolis sagrei</i>												中米、西インド諸島原産。北米、ハワイ、ケイマン諸島、台湾等に侵入。		森林、草原等	かつてはペット等として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	フロリダの侵入地では在来のグリーンアノールを駆逐している。	特定外来、GISD	第2回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、Lever(2003)、自然環境研究センター(編著)(2008)、Huang et al.(2008a, 2008b)、Kraus(2009)、Latella et al.(2011)、ISSG-GISD		
9	未定着	その他の定着予防外来種		特定外来	特定外来生物のアノール属(グリーンアノール、ブラウンアノール除く)	<i>Anolis</i> spp.												西インド諸島		森林、草原等	かつてはペット等として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	<i>Anolis allogus</i> , <i>A. alutaceus</i> , <i>A. angusticeps</i> , ナイトアノール <i>A. equestris</i> , ガーマナノール <i>A. garmani</i> , <i>A. homolechis</i> の6種。	外来法・特定、GISD(一部の種)	第5・6・7回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、Lever(2003)、自然環境研究センター(編著)(2008)、Kraus(2009)、Latella et al.(2011)、ISSG-GISD		
10	未定着	その他の定着予防外来種		旧要注意	ヒョウモントカゲモドキ	<i>Eublepharis macularius</i>												南アジア-西アジア		岩砂漠、低木林等	ペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	爬虫類に病原性を持ち、在来種オビトカゲモドキに致死性のある原虫クリプトスポリジウム <i>Cryptosporidium</i> spp. に感染している場合があり、在来爬虫類への感染が懸念される。	要注意	第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、Terrell et al.(2003)、黒木(2005)、自然環境研究センター(編著)(2008)		
11	未定着	その他の定着予防外来種		特定外来	ミナミオオガシラ	<i>Boiga irregularis</i>												オーストラリア、ソロモン諸島、ニューギニア、インドネシア原産。グアムに侵入。		森林等	かつてペット等として飼養されていた可能性がある。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	沖縄島で貨物への混入に由来すると考えられる個体が捕獲されたことがある。弱毒だが咬まれると重体になることもある。	特定外来、W100: IUCN, GISD	第2回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、Lever(2003)、自然環境研究センター(編著)(2008)、Kraus(2009)、ISSG-GISD		
12	未定着	その他の定着予防外来種		特定外来	特定外来生物のオオガシラ属(ミナミオオガシラを除く)	<i>Boiga</i> spp.												南アジア-東南アジア		森林等	かつてペット等として飼養されていた可能性がある。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	ミドリオオガシラ <i>B. cyanea</i> 、イヌバオオガシラ <i>B. cynodon</i> 、マングループヘビ <i>B. dendrophila</i> 、ボウシオオガシラ <i>B. nigriceps</i> の4種。	特定外来	第6回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)		
総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)																											
緊急対策外来種																											
13	分布拡大期-まん延期	緊急対策外来種		特定外来	カミツキガメ	<i>Chelydra serpentina</i>												北米-南米		池沼、河川等	かつてペットとして大量に飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、許可を受けた個体が多数飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	広義のカミツキガメを指す。4亜種(ホクベアカミツキガメ <i>C. s. serpentina</i> 、フロリダカミツキガメ <i>C. s. oscarola</i> 、チュウベアカミツキガメ <i>C. s. rossignoni</i> 、ナンベアカミツキガメ <i>C. s. acutirostris</i>) から成る。ペットとして飼われていたものが遺棄されて定着したと考えられている。阿武隈川で2010年に捕獲されたメスが潜在的に繁殖可能であることが確認された。また、狩野川水系では2010-2011年に産卵経験があると思われる成熟メス・成熟サイズのオスの前年の孵化幼体と思われる個体が確認され、定着の可能性が指摘されている。	特定外来、W100: 日本、各県: 北海道、千葉、愛知、京都、兵庫、愛媛、佐賀、熊本	第2回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編著)(2008)、小林(2007)、加藤・衛藤(2012)、辻井(2012)		
14	分布拡大期-まん延期	緊急対策外来種		旧要注意	アカミミガメ	<i>Trachemys scripta</i>												北米産。ハワイ、インドシナ、インド、ヨーロッパに侵入。		小笠原を除くほぼ日本全国	池沼、湖、河川、湿地等	ペットとして大量に飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	3亜種(ミシシッピアカミミガメ <i>T. s. elegans</i> 、キバラガメ <i>T. s. scripta</i> 、カンパランドキミミガメ <i>T. s. troostii</i>) から成る。ペットとして安価に大量に販売されている。遺棄や逸走が頻繁に生じていると考えられる。流通等が規制された場合に大量遺棄が生じよう事前の対策が求められる。とりわけミシシッピアカミミガメは流通量が多く、多数が定着して野外での繁殖も確認されている。	要注意、W100: 日本、IUCN, GISD、北海道、青森、千葉、愛知、滋賀、京都、兵庫、鳥取、佐賀、宮崎、熊本、沖縄	第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、日本生態学会(編)(2002)、Lever(2003)、自然環境研究センター(編著)(2008)、有馬ほか(2008a, 2008b, 2009, 2010)、沢田(2012)、Kraus(2009)、安川(2012)、ISSG-GISD	

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 被害の深刻度 実効性・実行可能性	特定外来 /旧要注意	和名	学名	選定理由	評価項目										原産地・分布	日本での分布	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等		
								定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	経済産業									利用	付着混入
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	繁殖	気候													
15	小笠原・南西諸島	緊急対策外来種			特定外来	グリーンアノール	<i>Anolis carolinensis</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	北米南東部原産、ミクロネシア、ハワイ等に侵入。	小笠原父島、兄島、母島、沖縄島、座間味島	森林、林縁、農耕地等	かつてペット等として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	小笠原諸島で深刻な生態系被害を引き起こしている。2012年に兄島への侵入が確認され、根絶に向けた取組が進められている。	特定外来、W100:日本、GISD、各県:沖縄	第2回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、日本生態学会(編)(2002)、Lever(2003)、自然環境研究センター(編著)(2008)、阿部(2009)、Kraus(2009)、Toda et al.(2010)、Shimizu(2013)、大河内(2013)、ISSG-GISD		
16	小笠原・南西諸島	緊急対策外来種			特定外来	タイワンスジオ	<i>Elaphe taeniura friesei</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	台湾	沖縄島	森林、農耕地等	展示用、食用、薬用として導入されたと考えられる。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	先島諸島には同種の別亜種サキシマスジオ <i>E. t. schmackeri</i> が生息する。	特定外来、各県:沖縄	第2回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、日本生態学会(編)(2002)、Ota et al.(2004)、自然環境研究センター(編著)(2008)、阿部(2009)、寺田(2011)		
17	小笠原・南西諸島	緊急対策外来種			特定外来	タイワンハブ	<i>Protobothrops mucrosquamatus</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	台湾	沖縄島	森林、農耕地等	展示用、食用、薬用として導入されたと考えられる。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	ヘビを用いたショー及び薬用として、1970年代から1990年代半ばまで沖縄島に大量に輸入されていた。これらの逸出が遺棄に由来すると考えられる。在来ハブとの交雑個体と考えられるヘビが採集されている。	特定外来、各県:沖縄	第2回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、日本生態学会(編)(2002)、Ota et al.(2004)、自然環境研究センター(編著)(2008)、阿部(2009)、寺田(2011)		

重点対策外来種

18	小笠原・南西諸島	重点対策外来種			旧要注意	グリーンイグアナ	<i>Iguana iguana</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	中南米、西インド諸島	石垣島	森林等	ペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。	要注意、GISD	第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、Lever(2003)、自然環境研究センター(編著)(2008)、阿部(2009)、Kraus(2009)、ISSG-GISD
----	----------	---------	--	--	------	----------	----------------------	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	------------	-----	-----	----------------	-------------------------	-----------------------------	----------	---

その他の総合対策外来種

19	定着初期/限定分布	その他の総合対策外来種				ミナミシガメ	<i>Mauremys mutica mutica</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	中国、台湾、ベトナム	大阪、京都、滋賀	池沼や低湿地、小さな水路等	ペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	八重山諸島に亜種ヤエヤマシガメ <i>M. m. kami</i> が分布。本亜種の属するシガメ科は属間交雑のおそれもあるため、特に留意が必要。生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。	その他	日本生態学会(編)(2002)、Ota et al.(2004)、自然環境研究センター(編著)(2008)、小林・長谷川(2005)
20	定着初期/限定分布	その他の総合対策外来種			旧要注意	チュウゴクスッポン	<i>Pelodiscus sinensis sinensis</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	ベトナム南部から中国大陸沿岸部、ロシア極東地域	沖縄島以南の琉球列島	河川の中・下流域や池、湖沼等	水産資源としての価値が高く、食用や養殖用に生体の流通が多い。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	ニホンスッポンの同物異名と見なす考えもある。ただし、日本本土の集団と台湾や香港の集団の間には比較的明確な遺伝的差違があるとされる。生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。	要注意、各県:北海道、青森、愛知、兵庫	第3回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(爬虫類・両生類)、日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編著)(2008)
21	定着初期/限定分布	その他の総合対策外来種				スインホーキノボリトカゲ	<i>Japalura swinhonis</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	台湾	静岡	森林、林縁、農耕地、住宅地等	ペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	輸入植物への混入による侵入と推測されている。生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。		加藤ほか(2010, 2013)

【国内由来の外来種】

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 被害の深刻度 実効性・実行可能性	特定外来 /旧要注意	和名	学名	選定理由	評価項目										原産地	問題となっている地域	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等		
								定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	人体	経済産業									利用	付着混入
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	繁殖	気候													
総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)																											
重点対策外来種																											
1	国内由来の外来種	重点対策外来種				沖縄諸島のヤエヤマセマルハコガメ	<i>Cuora flavomarginata evelynae</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	石垣島、西表島	沖縄島、宮古島、黒島等	森林とその周辺、河川周辺の沼沢地、溼原等	国の天然記念物に指定されていることから飼養は規制されているが、許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。ヤエヤマセマルハコガメは国の天然記念物に指定されている。しばしば野外で個体が確認され、定着している可能性もあるが、これらの亜種は確定されていない。リュウキュウヤマガメとの雑種と思われる個体も確認されている。	その他	Ota(1999)		
2	国内由来の外来種	重点対策外来種				沖縄諸島及び宮古諸島のヤエヤマシガメ	<i>Mauremys mutica kami</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	石垣島、西表島、与那国島	沖縄島、阿嘉島、宮古島等	河川、池沼、湿地等	ペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。しばしば野外で個体が確認され、定着している可能性もあるが、これらの亜種は確定されていない。	その他	Ota(1999)、前之圓・戸田(2007)、小林・長谷川(2005)		
3	国内由来の外来種	重点対策外来種				琉球列島のニホンスッポン	<i>Pelodiscus sinensis japonicus</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	本州、四国、九州	大隅諸島、奄美諸島	池沼、河川等	食用、養殖用として持ち込まれたと考えられる。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。		日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編著)(2008)		
4	国内由来の外来種	重点対策外来種				九州のオキナワキノボリトカゲ	<i>Japalura polygonata polygonata</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	奄美諸島、沖縄諸島	宮崎県日南市、鹿児島市指宿市、屋久島。	森林等	ペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。九州南部の個体群については生息、防除法等についての研究が行われている。		日本爬虫両棲学会(2009)、太田他(2013)、Jono et al.(2013)		
5	国内由来の外来種	重点対策外来種				伊豆諸島のニホントカゲ	<i>Plestiodon japonicus</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	近畿中・北西部～西日本と周辺島嶼	八丈島	森林、農耕地、住宅地等	ペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	本種の分類が見直され、東日本とロシア沿海州のものは別種ヒガシニホントカゲ <i>P. finitimus</i> とされた。八丈島の外来個体群は狭義のニホントカゲ、オカダトカゲとの交雑が確認されている。		栗山ほか(2009)、Okamoto et al.(2013)		

【国内由来の外来種】

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 被害の深さ、 実施可能性、 実行可能性	特定外来 /旧要注意	和名	学名	選定理由	評価項目										分布	問題となっ ている地域	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等		
								定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要 地域	人体	経済 産業									利用	付着 混入
								生物	導入	競争	交雑	捕食 摂食	繁殖	気候													
総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)																											
重点対策外来種																											
1	国内由来の 外来種	重点対 策外来 種			伊豆諸島などのアズマヒキガエル	<i>Bufo japonicus formosus</i>					-	-	-	-	-	-	島根半島、鳥取 県、近畿地方北 部、志摩半島・紀 伊半島中部、中 部地方以東	北海道、佐渡、 伊豆諸島	森林、農耕地、 草原、公園等	ペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。	八丈島では駆除が実施されている。	その他	日本生態学会(編著)(2002)、後藤・岩 崎(2012)			
2	国内由来の 外来種	重点対 策外来 種			関東以北及び島に侵入したヌマガエル	<i>Fejervarya kawamurai</i>					-	-	-	-	-	-	本州中部以西、 四国、九州、奄美 諸島、沖縄諸島、 台湾、中国	関東、長崎(島 嶼部:ただし平 戸島は在来)、 種子島	水田、河川敷等	ペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意 を払い、放逐を厳に慎 むべき。	カエル類の中で近年の侵入が最も頻繁に生じ ている種であり、その貪欲な食性により他種に 影響を与える可能性が示唆されているため注 意を要する。生息実態及び生態系等への影響 に関する知見の集積が必要。	各県:千葉	長谷川・小賀野(1998)、林ほか (2000)、森口ほか(2004)、三谷ほか (2009)、福山ほか(2010)、小鹿野ほか (2005)			

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) <動物(魚類)>

【国外由来の外来種】

対策優先度の要件は緊急対策外来種・重点対策外来種のみ記入

2015.03.26

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来 /旧要注意	和名	学名	選定理由	評価項目												原産地・分布	日本での分布	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性					定着可能性	生態系被害			分布拡大	重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散												
										生物	導入	競合					交雑	捕食	繁殖	気候								
定着を予防する外来種(定着予防外来種)																												
侵入予防外来種																												
1	未定着	侵入予防外来種				ブラウンブルヘッド	<i>Ameiurus nebulosus</i>												アメリカ東部		河川緩流域の低質が柔かい場所、湖沼に生息。	利用に関する情報は得られなかった。	露ヶ浦などで定着しているチャネルキャットフィッシュと原産地の分布域が重なるため、同様の環境への放流は厳に慎むべき。	アメリカでは移入された湖の在来のトゲウオを駆逐した例がある。	未判定外来、GISD	Wydoski and Whitney (2003), Etnier and Starnes (1993), Boschung and Hayden (2004), GISD data sheet		
2	未定着	侵入予防外来種				フラットヘッドキャットフィッシュ	<i>Pylodictis olivaris</i>												アメリカ東部、中部		倒木や枯れ枝が沈んでいる池の斜面が緩やかな場所を好む。	利用に関する情報は得られなかった。	-	アメリカでは本種が侵入した水域で、同科の在来ナマズ類やザリガニ類などの減少が見られている。	未判定外来、GISD	Boschung and Hayden (2004), Etnier and Starnes (1993), Wydoski and Whitney (2003)		
3	未定着	侵入予防外来種				ホワイトパーチ	<i>Morone americana</i>												アメリカ北東部の沿岸地域		中・大規模河川の止水部分や池に生息。主に汽水域に生息するが、淡水域にも生息している。	利用に関する情報は得られなかった。	-	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐する可能性がある。アメリカの各地で本種が在来種の卵を捕食することによる影響が報告されている。塩分耐性が強く、海を越えて水系を超えた移動が可能。	GISD	Werner (2004), GISD data sheet		
4	未定着	侵入予防外来種				ラッフ	<i>Gymnocephalus cernuus</i>												イギリスからロシア、中国までのユーラシア大陸		低地から高地までの河川、富栄養湖、大河川の河口や汽水湖に多い。	利用に関する情報は得られなかった。	-	イギリスや北米のいくつかの地域で、捕食や競合によって在来種の減少などの悪影響を及ぼした事例がある。最長10年生きる。	未判定外来、GISD	Kotteat and Freyhof (2007), Lever (1996), GIDS data sheet		
5	未定着	侵入予防外来種				ラウンドゴビー	<i>Neogobius melanostomus</i>												アソフ海、黒海、カスピ海流域		大河川の汽水域や湖沼、湾などの底質が砂や岩である浅瀬を好む。	利用に関する情報は得られなかった。	-	アメリカの五大湖などで、産卵環境や餌の競合、卵の食害などによって、在来種の減少を引き起こしている。	GISD	Kotteat and Freyhof (2007), GIDS data sheet		
その他の定着予防外来種																												
6	未定着	その他の定着予防外来種				ガー科	Lepisosteidae Gen. spp.												中央アメリカから北米、カナダ		河川(汽水-淡水域)、湖沼	一般的な観賞魚として多く流通している。一部の種は比較的安価に稚魚が販売されている。	ガー類は大型になるため、飼いきれなくなる可能性がある。野外への放流は厳に慎むべき。	国内で遺棄された大型個体の捕獲が相次ぎ、長期間生存できることは明らかであり、将来、繁殖に成功した場合、急速に増加するおそれがある。	各県・滋賀、佐賀、その他	Etnier and Starnes (1993), Goldstein et al. (2000), Boschung and Hayden (2004), 自然環境研究センター(編者)(2008)		
7	未定着	その他の定着予防外来種				レッドホースミー	<i>Cyprinella lutrensis</i>												アメリカ中央南部から中央北部		河川中流域の底が砂泥や岩の池や水路に生息。	観賞魚として一般に広く普及している種で、安価で大量に流通している。	温帯性であるため、特に、本州中部以南では野外への放流は厳に慎むべき。	海外では近縁種と雑種を作ることや競合することによって、希少種を含む在来種の減少を引き起こしている。ただし、日本に同属種はいない。	GISD	Goldstein et al. (2000), Etnier and Starnes (1993), Boschung and Hayden (2004), GISD data sheet, USGS NAS		
8	未定着	その他の定着予防外来種			旧要注意	ヨーロッパナマズ	<i>Silurus glanis</i>												中央・東ヨーロッパ		大きな湖や河川に生息し、汽水域に入ることもある。	観賞魚として比較的安価に大量に流通している。	非常に大型になるため、飼いきれなくなる危険がある。野外への放流は厳に慎むべき。	ヨーロッパの侵入地では在来種の減少を引き起こしたとされている。在来の同属種との交雑も懸念されている。在来の同属種と交雑のおそれがあるため、これらの生息域では特に侵入に留意が必要。	要注意、各県・滋賀	自然環境研究センター(編者)(2008)、Kotteat and Freyhof (2007)		
9	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	ノーザンバイク	<i>Esox lucius</i>												アメリカ北部、カナダ、ヨーロッパ、アジア北部		河川緩流域や湖沼に生息し、水草の多い場所を好む。冷水性。	観賞魚として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示用等で許可を受けた少数が利用されている。	野外への放流は厳に慎むべき。	アメリカのデニス湖では捕食や競争により在来魚類に影響を与えた事例がある。長寿命であり、最長24年生きた例がある。	特定外来、各県・佐賀	自然環境研究センター(編者)(2008)、Etnier and Starnes (1993), Kotteat and Freyhof (2007)		
10	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	マスキーバイク	<i>Esox masquinongy</i>												アメリカ北東部とカナダ南東部		河川緩流域や湖沼に生息し、水草の多い場所を好む。冷水性。	観賞魚として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	野外への放流は厳に慎むべき。	ウィスコンシン州の湖では同所的に生息するオオクチバスを駆逐するなどの被害が確認されている。長寿命であり、最長30年生きた例がある。	特定外来、各県・佐賀	自然環境研究センター(編者)(2008)、Boschung and Hayden(2004), Kotteat and Freyhof (2007)		
11	未定着	その他の定着予防外来種			未判定	バイク科	Esocidae spp.												アメリカ大陸とユーラシア大陸の北部		河川緩流域や湖沼に生息し、水草の多い場所を好む。	かつては観賞魚として流通していた種もある。現在は輸入等が規制されている。	野外への放流は厳に慎むべき。	マスキーバイクやノーザンバイクと同じ科に属し、生態が似ているためにこれらの種と同様の影響を及ぼす可能性が高いと考えられる。	未判定外来、各県・佐賀	自然環境研究センター(編者)(2008)、Etnier and Starnes (1993), Wydoski and Whitney (2003)		
12	未定着	その他の定着予防外来種			未判定	ガンブシア・ホルブローキ	<i>Gambusia holbrooki</i>												アメリカ東部の沿岸地域		主に水田地帯などの流れの無い用水路に生息するが、河川本流や湖沼にも生息。	観賞魚としてごく稀に流通している。輸入等は規制されている。	カダヤシと生態がほぼ同じであり、野外に放流するとカダヤシ同様に広まる危険があるため、注意を要する。野外への放流は厳に慎むべき。	オーストラリアでは希少種を含む在来魚の卵や仔稚魚の捕食、攻撃が確認されており、これらの減少につながっている。卵胎生。	未判定外来、GISD	自然環境研究センター(編者)(2008)、Francis eds. (2012), Kotteat and Freyhof (2007)		
13	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	ケツギョ	<i>Siniperca chuatsi</i>												アムール川水系、中国		河川緩流域や湖沼に生息。	観賞魚として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示用等で許可を受けた少数が利用されている。	野外への放流は厳に慎むべき。	中国では養殖池に紛れ込んだ場合に他種を捕食する害魚とされている。	特定外来	自然環境研究センター(編者)(2008)、土井・青山(2004)、Doi et al. (2004)		
14	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	コウライケツギョ	<i>Siniperca scherzeri</i>												中国、朝鮮半島、ベトナム		河川や湖沼に生息し、ケツギョよりも流れのある場所を好む。	観賞魚として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。展示用等で許可を受けた少数が利用されている。	野外への放流は厳に慎むべき。		特定外来	自然環境研究センター(編者)(2008)、土井・青山(2004)、Doi et al. (2004)		
15	未定着	その他の定着予防外来種			旧要注意	ナイルパーチ	<i>Lates niloticus</i>												西アフリカからナイル川流域		湖、河川緩流域、水路などに生息し、湖では沿岸部に分布する。	一般的な観賞魚として、広く普及しており、価格も安価で比較的普通に流通している。	非常に大型になるため遺棄の危険性が高く、南西諸島や沖縄、温泉水の川では野外への放流は厳に慎むべき。	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐する可能性がある。アフリカの湖で在来のシクリッド200種以上が絶滅した事例がある。	要注意、W100:IUCN, GISD	自然環境研究センター(編者)(2008)、Goldstein et al. (2000), Lever (1996)		
16	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	ストライプトバス	<i>Morone saxatilis</i>												アメリカ大西洋岸とカナダのセントローレンス川流域		内湾や河口域に生息し、産卵のために河川を遡上する。	本種そのものの利用はほぼ無いが、本種と同じ特定外来生物であるホワイトバスとの雑種がストライパーとして国内の管理釣り場で利用されている。雑種も特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	雑種同士では繁殖出来ないが、長寿命であるため捕食や競合による影響を長期間与える可能性があり、雑種も野外への放流は厳に慎むべき。	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐するため、カリフォルニア州のデニス湖では駆除対象となっている。	特定外来	自然環境研究センター(編者)(2008)、Boschung and Hayden(2004), Etnier and Starnes (1993), Wydoski and Whitney (2003)		
17	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	ホワイトバス	<i>Morone chrysops</i>												アメリカ東部とカナダのセントローレンス川流域		河川緩流域や湖沼に生息し、産卵のために河川を遡上する。	本種そのものの利用は無いが、本種と同じ特定外来生物であるホワイトバスとの雑種がストライパーとして国内の管理釣り場で利用されている。雑種も特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	雑種同士では繁殖出来ないが、長寿命であるため捕食や競合による影響を長期間与える可能性があり、雑種も野外への放流は厳に慎むべき。	肉食性が強く、捕食により在来種を駆逐するため、カリフォルニア州のカウエア湖とその下流では駆除対象となっている。	特定外来	自然環境研究センター(編者)(2008)、Boschung and Hayden(2004), Etnier and Starnes (1993), Wydoski and Whitney (2003)		
18	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	ヨーロッパアンパーチ	<i>Perca fluviatilis</i>												ヨーロッパとアジア北部		河川緩流域、湖沼などに生息し、木の根が張り出したり水草が豊富な場所を好む。	観賞魚として飼養されていた。現在は特定外来生物に指定され、輸入・飼養等は規制されている。	野外への放流は厳に慎むべき。	オーストラリアで競合によって在来の希少種を絶滅させた事例がある。スペインのダムでも外来種を含む魚類を減少させた例がある。長寿命であり、最長10年生きた例がある。	特定外来、GISD	Kotteat and Freyhof (2007), Lever (1997), GIDS data sheet		
19	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	バイクパーチ	<i>Sander lucioperca</i>												ヨーロッパ中央部から西アジア		河川緩流域や湖沼に生息し、深みのある静穏な水域を好む。汽水域にも生息。	利用に関する情報は得られなかった。	野外への放流は厳に慎むべき。	トルコでは本種の導入後に在来種が見られなくなった例がある。デンマークやスペインなどのヨーロッパ諸国で在来のカワカマス科魚類などの減少を引き起こしていると考えられる。最長16年生きる。	特定外来	Kotteat and Freyhof (2007), Lever (1998), Invasive Species Compendium HP		

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) < 動物(昆虫類) >

【国外由来の外来種】

対策優先度の要件は緊急対策外来種、重点対策外来種のみ記入

2015.03.26

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 被害の深刻度・実効性・実行可能性	特定外来種/旧要注意	和名	学名	定着理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
								定着可能性		生態系被害		分布拡大		特に問題となる被害		逸出・拡散													
								生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入										
定着を予防する外来種(定着予防外来種)																													
侵入予防外来種																													
1	未定着	侵入予防外来種		特定外来	ヒメテナゴコガネ属	<i>Propomacrus</i> spp.													中国、西アジア原産。		森林	1990年代後半から販売業者・愛好者により販売・飼養がなされていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されている。		一部の種の輸入について植物防疫法上の規制あり。	特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)			
2	未定着	侵入予防外来種		特定外来	ヒアリ(アカヒアリ)	<i>Solenopsis invicta</i>													南米原産。オーストラリア、北米、台湾、中国南部、マレーシアなどに侵入。		亜熱帯～暖温帯の草地など比較的開けた環境。	利用に関する情報は得られなかった。			特定外来、W100:IUCN、GISD	自然環境研究センター(編著)(2008)、東ほか(2008)			
3	未定着	侵入予防外来種		特定外来	コカミアリ	<i>Wasmannia auropunctata</i>													中南米原産。ガラパゴス、ニュージーランド等の島嶼に侵入。		森林、農耕地等	現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等の目的で許可を受け飼養された実績がある。	逸出には十分な注意を払うべき。		特定外来、W100:IUCN、GISD	Jourdan(1997)、自然環境研究センター(編著)(2008)			
4	未定着	侵入予防外来種		旧要注意	アフリカミツバチとアフリカ化ミツバチ	<i>Apis mellifera scutellata</i>													アフリカ東部～南部原産。オーストラリア、北米中南部～中南米、西インド諸島等に侵入。		森林、農耕地、住宅地等	南米等では養蜂に用いられる。日本では、家畜伝染病予防法により輸入が規制されている。	安易な導入を計画すべきではない。	アフリカ化ミツバチは、亜種アフリカミツバチとヨーロッパ産亜種との交雑で生じたもの。	要注意	自然環境研究センター(編著)(2008)			
5	小笠原・南西諸島/未定着	侵入予防外来種		特定外来	クモテナゴコガネ属	<i>Euchirus</i> spp.													インドネシア、フィリピン等原産。		森林	1990年代後半から販売業者・愛好者により販売・飼養がなされていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されている。		一部の種の輸入について植物防疫法上の規制あり。	特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)			
その他の定着予防外来種																													
6	未定着	その他の定着予防外来種		旧要注意	外国産クワガタムシ	Lucanidae Gen spp.													全動物地理区に約1200種が分布。		森林に生息する種が多い。	大量に輸入され、流通している。種によっては安価に入手可能で、幅広い層にペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	一部の種の輸入について植物防疫法上の規制あり。野外での外国産のオオクワガタ属と日本産の同属種ヒラタクワガタとの雑種個体の確認例があり、遺伝的攪乱をもたらすおそれ指摘されている。	要注意、各県：北海道、青森、千葉、愛知、兵庫、愛媛、鹿児島	自然環境研究センター(編著)(2008)、藤田(2010)			
7	未定着	その他の定着予防外来種			外国産カブトムシ	Dynastinae Gen. spp.													全生物地理区に約1000種が分布		森林に生息する種が多い。	大量に輸入され、流通している。種によっては安価に入手可能で、幅広い層にペットとして飼養されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	一部の種の輸入について植物防疫法上の規制あり。アトラスオオカブト <i>Chalcosoma atlas</i> が最も安価で大量に流通している。	各県：千葉、京都、鹿児島、沖縄	荒谷(2003, 2005)			
8	小笠原・南西諸島/未定着	その他の定着予防外来種		特定外来	外国産テナゴコガネ属	<i>Cheirotonus</i> spp.													東南アジア原産。		大木のある成熟した森林	1990年代後半から販売業者・愛好者により販売・飼養がなされていた。現在は特定外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、飼養許可の実績がある。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	一部の種の輸入について植物防疫法上の規制あり。在来種のヤンバルテナゴコガネ(国内希少野生動物種)と近縁の種では交雑による遺伝的攪乱が懸念されている。	特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)、柄澤ほか(2012)、林(2013)			
総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)																													
緊急対策外来種																													
9	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種		特定外来	アルゼンチンアリ	<i>Linepithema humile</i>													南米原産。世界各地に侵入。	東京、神奈川、静岡、愛知、岐阜、京都、大阪、兵庫、岡山、広島、山口、徳島	日本では港湾や住宅地等、人工的な環境に多い。	利用に関する情報は得られなかった。			特定外来、W100:日本・IUCN、GISD	環境省(2013)、田付(編)(2014)			
10	定着初期/限定分布	緊急対策外来種		特定外来	アカカミアリ	<i>Salenopsis geminata</i>													北米南部～中南米原産。世界各地の熱帯に侵入。	火山列島硫黄島、沖縄本島	裸地、草地等開放的な空間	利用に関する情報は得られなかった。		沖縄伊江島の個体群は絶滅した可能性が高い。	特定外来、W100:日本・IUCN、GISD、各県：沖縄	自然環境研究センター(編著)(2008)			
11	定着初期/限定分布	緊急対策外来種		特定外来	ツマアカスズメバチ	<i>Vespa velutina</i>													南アジア～東南アジア～中国南部原産。韓国、フランス、スペインに侵入。	対馬	森林、農耕地、住宅地	利用に関する情報は得られなかった。		2012年に対馬で確認、島内各所で営巣が確認されている。		Villemant et al.(2011)、Choi et al.(2012)、境・高橋(2014)			
重点対策外来種																													
12	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種		旧要注意	ホソオチョウ(ホソオアゲハ)	<i>Sericanus montela</i>													中国、朝鮮半島、ロシア南東部原産。	関東、静岡、岐阜、近畿、岡山、山口、福岡、大分	河川敷、農耕地等	かつて愛好家により飼養されていた実績があり、現在もその可能性がある。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。		要注意、各県：愛知、京都、兵庫、熊本	日本生態学会(編)(2002)、自然環境研究センター(編著)(2008)			
13	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種		旧要注意	アカボシゴマダラ大陸亜種(名義タイプ亜種)	<i>Hestina assimilis assimilis</i>													中国、朝鮮半島、ベトナム原産。	関東、伊豆大島、静岡、山梨、長野でも記録されている。	都市、里山等	かつて愛好家により飼養されていた実績があり、現在もその可能性がある。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	関東地方を中心に分布拡大中。	要注意、各県：北海道、愛知、兵庫	自然環境研究センター(編著)(2008)、柄澤他(2012)、林(2013)			
14	小笠原・南西諸島	重点対策外来種			カンショオサゾウムシ	<i>Rhabdoscelus obscurus</i>													ニューギニア原産と考えられている。オーストラリア、太平洋諸島等に侵入。	小笠原・大東諸島	森林、農耕地等	利用に関する情報は得られなかった。		小笠原固有種/ヤシを加害、サトウキビにも被害を与える。輸入について植物防疫法上の規制あり。	W100:日本、各県：沖縄	菊部ほか(2008, 2009)			
その他の総合対策外来種																													
15	定着初期/限定分布	その他の総合対策外来種		旧要注意	シロテンハナムグリ台湾亜種(サイシロテンハナムグリ)	<i>Protaetia orientalis sakaii</i>													台湾原産。サイパン、グアムに侵入。	奄美大島、沖縄島、宮古島、石垣島、大東諸島	森林、林縁、幼虫は腐植土中。	利用に関する情報は得られなかった。		輸入について植物防疫法上の規制あり。在来種のおきなワシロテンハナムグリとの交雑によるF1と見られる個体が屋外で発見されており、生殖攪乱の影響が懸念される。また、別種リュウキュウオオハナムグリとの交雑のおそれも指摘されている。	要注意	自然環境研究センター(編著)(2008)			
16	定着初期/限定分布	その他の総合対策外来種			クビアカツヤカミキリ(クロジャコウカミキリ)	<i>Aromia bungii</i>													中国、朝鮮半島、台湾、ベトナム北部。	埼玉、愛知	公園や市街地の街路樹	利用に関する情報は得られなかった。		サクラ等への影響が懸念。輸入について植物防疫法上の規制あり。知見の集積が必要。		愛知県(2013)			
17	定着初期/限定分布	その他の総合対策外来種			フェモラータオオモブトムシ	<i>Sagra femorata</i>													南アジア～東南アジア～中国南部。	三重	草地、河川敷	植物防疫法違反で導入された個体が、インターネット等で流通、飼養されていた。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	2008年頃三重に定着、分布拡大が目目される。輸入について植物防疫法上の規制あり。生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。		秋田ほか(2011)			

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 被害の深刻度 実効性 実行可能性	特定外来/旧要注意	和名	学名	選定理由	評価項目											原産地・分布	日本での分布	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
								定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	特に問題となる被害 人体	経済産業	利用									付着混入
								生物	導入	競争	交雑	捕食	繁殖	気候													
18	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	旧要注意	チャイロネツタイズバチ	<i>Delta pyriforme</i>	/	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	東南アジア、南太平洋諸島原産。	小笠原諸島	森林 - 住宅地	利用に関する情報は得られなかった。	-	小笠原に侵入した個体群の亜種が特定されておらず、侵入元は不明。知見の集積が必要。	要注意	自然環境研究センター(編著)(2008)		
19	小笠原・南西諸島	その他の総合対策外来種	/	旧要注意	ナンヨウチビアシナガバチ	<i>Ropalidia marginata</i>	/	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	東南アジア、マリアナ諸島原産。	火山列島硫黄島	森林 - 林縁等	利用に関する情報は得られなかった。	-	硫黄島では全域の優占種になっている。知見の集積が必要。	要注意	自然環境研究センター(編著)(2008)		
適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)																											
20	定着初期/限定分布	産業管理外来種	/	特定外来	セイヨウオオマルハナバチ	<i>Bombus terrestris</i>	/	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨーロッパ原産。北米、オーストラリア、イスラエルに侵入。	北海道	林縁、草地、農耕地等	ハウス内の作物の受粉用の農業資材として、特定外来生物の飼養等許可を受けた農家・事業者のみが利用している。	飼養等許可の内容を遵守し認可の際の条件である。ハウスへのネット展張など管理を厳格におこなう。	北海道でのみ継続的な繁殖が確認されている。本州以北でも野外で確認されるが定着は確認されていない。	特定外来 W 100: 日本・IUCN, Dohzono et al. (2008), Kanbe et al. (2008), Yokoyama & Inoue (2010)	自然環境研究センター(編著)(2008)		

【国内由来の外来種】

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件 被害の深刻度 実効性 実行可能性	特定外来/旧要注意	和名	学名	選定理由	評価項目											分布	問題となっている地域	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等	
								定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	人体	経済産業	利用									付着混入
								生物	導入	競争	交雑	捕食	繁殖	気候													
総合的に対策が必要な外来種(総合対策種)																											
1	国内由来の外来種	その他の総合対策外来種	/		伊豆諸島などのリュウキュウツヤハナムグリ	<i>Protaetia pryeri</i>	/	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	南西諸島、九州南部	東京、伊豆諸島	森林			生息実態及び生態系等への影響に関する知見の集積が必要。	その他	自然環境研究センター(編著)(2008)		
2	国内由来の外来種	その他の総合対策外来種	/		北海道・沖縄のカブトムシ本土亜種	<i>Trypoxylus dichotomus septentrionalis</i>	/	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	本州、四国、九州、屋久島他、朝鮮半島、中国	北海道・沖縄島	森林	ペットとして販売・飼育されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	飼育下では沖縄亜種との交雑が確認され、野外での交雑による固有遺伝子への影響が懸念されている。北海道では知見の集積が必要。	各県: 北海道、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2008)、北海道ブルーリスト		

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) < 動物(陸生節足動物) >

【国外由来の外来種】

対策優先度の要件は緊急対策外来種・重点対策外来種のみ記入

2015.03.26

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来/旧要注	和名	学名	選定理由	評価項目														原産地・分布	日本での分布	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等
			被害の深刻度	実効性・実行可能性					定着可能性		生態系被害		分布拡大		重要地域	特に問題となる被害		逸出・拡散												
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	繁殖		気候	人体	経済産業	利用	付着混入										
定着を予防する外来種(定着予防外来種)																														
侵入予防外来種																														
1	未定着	侵入予防外来種	/	/	特定外来外来	アトラス属	<i>Atrax</i> spp.			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	オーストラリア原産。	-	主に森林	利用に関する情報は得られなかった。	-	壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被害がしばしば起きる。	特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)
2	未定着	侵入予防外来種	/	/	特定外来外来	ハドロニユケ属	<i>Hadronyche</i> spp.			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	オーストラリア原産。	-	主に森林	利用に関する情報は得られなかった。	-	壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被害がしばしば起きる。	特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)
3	未定着	侵入予防外来種	/	/	特定外来外来	イトゴモ属3種	<i>Lososceles</i> spp.			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	北米-南米原産。	-	住宅地等	利用に関する情報は得られなかった。	-	<i>Loxosceles reclusa</i> , <i>L. laeta</i> , <i>L. gaucho</i> の3種。壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被害がしばしば起きる。	特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)
4	未定着	侵入予防外来種	/	/	特定外来外来	ジウサンボシゴケグモ	<i>Latrodectus tredecimguttatus</i>			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨーロッパ原産。	-	住宅地等	利用に関する情報は得られなかった。	-		特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)
その他の定着予防外来種																														
5	未定着	その他の定着予防外来種	/	/	特定外来外来	キョクトウサソリ科	Buthidae Gen. spp.			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	世界の熱帯・亜熱帯域に約950種が分布。	-	乾燥地、森林等様々な環境に生息	ペットとして飼養されていた。現在は特定外来外来生物に指定され輸入・飼養は規制されている。	-	本科に属するマダラサソリ <i>Isometrus maculatus</i> が先島諸島に生息しているが、在来種もしくは古い時代の外来種の両方の可能性があり詳細は不明。	特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)
総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)																														
緊急対策外来種																														
6	分布拡大期-まん延期	緊急対策外来種	/	/	特定外来外来	ハイイロゴケグモ	<i>Latrodectus geometricus</i>		/	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	原産地は不明、熱帯-亜熱帯に広く分布。	愛知、九州、沖縄に定着。他にも確認記録多い。	都市部、住宅地等	現在は特定外来外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払うべき。	強い神経毒を持つが人の死亡例は報告されていない。セアカゴケグモよりも攻撃性は弱いとされている。	特定外来、各県：兵庫・宮崎・沖縄	自然環境研究センター(編著)(2008)、ゴケグモ情報センターHP
7	分布拡大期-まん延期	緊急対策外来種	/	/	特定外来外来	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasseltii</i>		/	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	オーストラリア原産と考えられている。北米等に侵入。	中部地方以南の主に太平洋側の地域、関東・東北の記録が増加している。	都市部、住宅地等	現在は特定外来外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払うべき。	強い神経毒を持ちオーストラリアで死亡例がある。国内では死亡例はない。	特定外来、各県：京都・兵庫・徳島	自然環境研究センター(編著)(2008)、ゴケグモ情報センターHP
8	定着初期/限定分布	緊急対策外来種	/	/	特定外来外来	クロゴケグモ	<i>Latrodectus mactans</i>		/	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	北米原産。	山口	都市部、住宅地等	利用に関する情報は得られなかった。	-	米軍岩国基地とその周囲で発見される。	特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)、ゴケグモ情報センターHP
その他の総合対策外来種																														
9	分布拡大期-まん延期	その他の総合対策外来種	/	/		ヤンバルトサカヤスデ	<i>Chamberlinius hualienensis</i>		/	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	台湾原産。	神奈川、埼玉、静岡、徳島、高知、鹿児島、八丈島、屋久島、沖縄島、奄美大島、徳之島	住宅地、農地、里地・里山的環境	利用に関する情報は得られなかった。	-	大量発生し不快害虫となる他、農業被害や毒を持つことの影響が大きい。知見の集積が必要。	各県：沖縄	藤山(2009)、石田・藤山(2010)

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) < 動物(陸生節足動物) >

【国外由来の外来種】

対策優先度の要件は緊急対策外来種・重点対策外来種のみ記入

2015.03.26

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来/旧要注	和名	学名	選定理由	評価項目													原産地・分布	日本での分布	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等				
			被害の深刻度	実効性・実行可能性					定着可能性			生態系被害			分布拡大			特に問題となる被害		逸出・拡散													
									生物	導入	競合	交雑	捕食摂食	繁殖	気候	重要地域	人体	経済産業	利用	付着混入													
定着を予防する外来種(定着予防外来種)																																	
侵入予防外来種																																	
1	未定着	侵入予防外来種	/	/	特定外来外来	アトラス属	<i>Atrax</i> spp.		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	オーストラリア原産。	-	主に森林	利用に関する情報は得られなかった。	-	壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被害がしばしば起きる。	特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)
2	未定着	侵入予防外来種	/	/	特定外来外来	ハドロニユケ属	<i>Hadronyche</i> spp.		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	オーストラリア原産。	-	主に森林	利用に関する情報は得られなかった。	-	壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被害がしばしば起きる。	特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)
3	未定着	侵入予防外来種	/	/	特定外来外来	イトゴモ属3種	<i>Lososceles</i> spp.		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	北米-南米原産。	-	住宅地等	利用に関する情報は得られなかった。	-	<i>Lososceles reclusa</i> , <i>L. laeta</i> , <i>L. gauchoi</i> の3種。壊死性の強い毒を持ち、原産地では人体への咬症被害がしばしば起きる。	特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)
4	未定着	侵入予防外来種	/	/	特定外来外来	ジュウサンボシゴケグモ	<i>Latrodectus tredecimguttatus</i>		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ヨーロッパ原産。	-	住宅地等	利用に関する情報は得られなかった。	-		特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)
その他の定着予防外来種																																	
5	未定着	その他の定着予防外来種	/	/	特定外来外来	キョクトウサソリ科	<i>Buthidae</i> Gen. spp.		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	世界の熱帯・亜熱帯域に約950種が分布。	-	乾燥地、森林等様々な環境に生息	ペットとして飼養されていた。現在は特定外来外来生物に指定され輸入・飼養は規制されている。	-	本科に属するマダラサソリ <i>Isometrus maculatus</i> が先島諸島に生息しているが、在来種もしくは古い時代の外来種の両方の可能性があり詳細は不明。	特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)
総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)																																	
緊急対策外来種																																	
6	分布拡大期-まん延期	緊急対策外来種	/	/	特定外来外来	ハイイロゴケグモ	<i>Latrodectus geometricus</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	原産地は不明、熱帯-亜熱帯に広く分布。	愛知、九州、沖縄に定着。他にも確認記録多い。	都市部、住宅地等	現在は特定外来外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払うべき。	強い神経毒を持つ人の死亡例は報告されていない。セアカゴケグモよりも攻撃性は弱いと言われている。	特定外来、各県：兵庫・宮崎・沖縄	自然環境研究センター(編著)(2008)、ゴケグモ情報センターHP
7	分布拡大期-まん延期	緊急対策外来種	/	/	特定外来外来	セアカゴケグモ	<i>Latrodectus hasseltii</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	オーストラリア原産と考えられている。北米等に侵入。	中部地方以南の主に太平洋側の地域、関東・東北の記録が増加している。	都市部、住宅地等	現在は特定外来外来生物に指定され輸入・飼養は規制されているが、学術研究等の目的で許可を受けた個体が飼養されている。	逸出には十分な注意を払うべき。	強い神経毒を持ちオーストラリアで死亡例がある。国内では死亡例はない。	特定外来、各県：京都・兵庫・徳島	自然環境研究センター(編著)(2008)、ゴケグモ情報センターHP
8	定着初期/限定分布	緊急対策外来種	/	/	特定外来外来	クロゴケグモ	<i>Latrodectus mactans</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	北米原産。	山口	都市部、住宅地等	利用に関する情報は得られなかった。	-	米軍岩国基地とその周囲で発見される。	特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)、ゴケグモ情報センターHP
その他の総合対策外来種																																	
9	分布拡大期-まん延期	その他の総合対策外来種	/	/		ヤンバルトサカヤステ	<i>Chamberlinius hualienensis</i>		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	台湾原産。	神奈川、埼玉、静岡、徳島、高知、鹿児島、八丈島、屋久島、沖縄島、奄美大島、徳之島	住宅地、農地、里地・里山的環境	利用に関する情報は得られなかった。	-	大量発生し不快害虫となる他、農業被害や毒を持つことの影響が大きい。知見の集積が必要。	各県：沖縄	藤山(2009)、石田・藤山(2010)

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト 掲載種の付加情報(根拠情報) <動物(その他無脊椎動物)>

【国外由来の外来種】

対策優先度の要件は緊急対策外来種・重点対策外来種のみ記入

2015.03.26

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来種/旧要注意種	和名	学名	選定理由	評価項目											原産地・分布	日本での分布	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等						
			被害の深刻度	実効性・実行可能性					定着可能性	生態系被害	分布拡大	重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散	生物	導入	競合	交雑	捕食									繁殖	気候	経済産業	利用	付着	混入
定着を予防する外来種(定着予防外来種)																																	
侵入予防外来種																																	
1	未定着	侵入予防外来種			旧要注意	ムネオプシス・レイディ	<i>Mnemiopsis leidyi</i>																北米・南米の大西洋沿岸原産。黒海、カスピ海、地中海等に侵入。		内湾から河口域にかけての海域	利用に関する情報は得られなかった。		動物プランクトンや小魚の捕食。	要注意、GISD	Ivanov et al. (2000)、自然環境研究センター(編著)(2008)、ISSG-GISD			
2	未定着	侵入予防外来種			特定外来	カワホトギスガイ	<i>Dreissena polymorpha</i>																黒海、カスピ海及び周辺河川原産。ヨーロッパ北米に侵入。		湖沼、河川	ヨーロッパでは本種の摂食活動を利用して貯水池の水質浄化させる試みがなされている。	導入は厳に慎むべき。	付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。	特定外来、GISD	自然環境研究センター(編著)(2008)			
3	未定着	侵入予防外来種			特定外来	クワガガイ	<i>Dreissena bugensis</i>																黒海沿岸原産。カスピ海、ヨーロッパ、北米等に侵入。		淡水、汽水の岩、人工構造物、泥中	利用に関する情報は得られなかった。		付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。	特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)			
4	未定着	侵入予防外来種			特定外来	ディケログマルス・ヴィロース	<i>Dikerogammarus vilosus</i>																東ヨーロッパ、黒海・カスピ海地方原産。西ヨーロッパに侵入。		湖沼、河川、汽水域	利用に関する情報は得られなかった。		幅広い水域に侵入し、他のヨコエドをはじめとする多種の水生生物を捕食。栄養段階を大きく変換させる。	その他	Dick & Platvoet (2000)、Dick et al. (2002)、Noordhuis et al. (2009)			
5	未定着	侵入予防外来種			旧要注意	ヨーロッパミドリガニ	<i>Carcinus maenus</i>																ヨーロッパ・アフリカ北部の大西洋沿岸原産。北米大西洋岸、南アメリカ、オーストラリアに侵入。		内湾の岩礁、乾石、干潟、塩性湿地	原産地では食用として利用されている。	導入は厳に慎むべき。	バラト水への幼生の混入だけでなく、船舶のシーチェストに混入していた事例も知られている。侵入地では、被害者である在来巻貝の殻を厚くするなどの表現型変異を短期間で引き起こし、二枚貝群集の組成を大きく変化させたことなどが知られる。	要注意、GISD、W100:IUCN	Cohen, A.N., Carlton, J.T., Fountain, M. C. (1995)、Trussell, G.C. (2000)、Grosholz, E.D. (2005)、自然環境研究センター(編著)(2008)			
その他の定着予防外来種																																	
6	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	アスタクス属	<i>Astacus spp.</i>																中央アジア～ヨーロッパ原産。		湖沼、河川等	ペットとして飼養されていた。現在は輸入・飼養は規制されている。		<i>Astacus astacus</i> , <i>A. leptodactylus</i> , <i>A. pachypus</i> の3種が含まれる。	特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)			
7	未定着	その他の定着予防外来種				ミステリーレイフィッシュ	<i>Procambarus fallax</i>																北米南部。		河川等	ペットとして飼養されていた。流通量は多い。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	単為生殖をおこなう。ザリガニカビ病を媒介する可能性がある。	その他	IUCN-red list			
8	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	ラステークレイフィッシュ	<i>Orconectes rusticus</i>																北米東部原産。北米各地、カナダ、フランスに侵入。		湖沼、河川等	ペットとして飼養されていた。現在は輸入・飼養は規制されている。		様々な水生生物を捕食し、摂食量が多い。	特定外来、GISD	自然環境研究センター(編著)(2008)、ISSG-GISD			
9	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	ケラクス属	<i>Cherax spp.</i>																オーストラリア、ニューギニア原産。		河川等	ペットとして飼養されていた。現在は輸入・飼養は規制されている。		本属は45種を含む。マロン <i>C. tenuimanus</i> 、レッドクロウ <i>C. quadricarinatus</i> 、ヤビー <i>C. destructor</i> 等が国内で流通していた。マロンは南アフリカに侵入。	特定外来	自然環境研究センター(編著)(2008)			
10	未定着	その他の定着予防外来種			特定外来	外国産モズガニ属	<i>Eriocheir spp.</i>																中国原産。ヨーロッパ諸国、北米等に侵入。		生体は河川、幼生は海域で浮遊生活。	「上海蟹」として食用にされるが、特定外来生物に指定されているため、許可を受けた業者のみが取り扱っている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	侵入地では、漁業による土手の破壊や川底の浸食によって生息場所の物理的構造を大きく変え、漁網内の漁獲物への食害等の漁業被害を発生させていることが知られる。	特定外来、GISD、W100:IUCN	Dittel, A.J., Epifanio, C.E. (2009)、小林哲(2012)			
総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)																																	
緊急対策外来種																																	
11	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種			特定外来	カワヒバリガイ属	<i>Limnoperna spp.</i>																東アジア～東南アジアに分布。		淡水域の岩の裏、水路等	利用に関する情報は得られなかった。		付着基盤を被覆することで在来生物相に大きな影響。	特定外来、W100:日本、GISD、各県:北海道、千葉、滋賀、京都、兵庫	自然環境研究センター(編著)(2008)			
12	定着初期/限定分布	緊急対策外来種			特定外来	ウチダザリガニ(タンカイザリガニを含む)	<i>Pacifastacus leniusculus</i>																北米原産。ヨーロッパに侵入。		北海道、福島、千葉、長野、滋賀	湖沼、河川等	特定外来生物に指定され輸入・飼養等は規制されているが、許可を受けて利用されているものもある。阿寒湖と塘路湖では漁業権が設定され食用に漁獲されている。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	ザリガニカビ病を媒介する可能性がある。	特定外来、W100:日本、GISD、各県:北海道、青森、京都			
13	分布拡大期～まん延期	緊急対策外来種			旧要注意	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>																米国南部原産。メキシコ、ドミニカ、ヨーロッパ等に侵入。		全国各地	湿地、水田とその周辺等	ペットとして多数飼育されている。かつては食用ウシガエルの餌として輸入された。	逸出には十分な注意を払い、放逐を厳に慎むべき。	要注意、W100:日本、GISD、各県:北海道、青森、千葉、滋賀、京都、兵庫、鳥取、徳島、鹿児島、沖縄				
14	小笠原・南西諸島	緊急対策外来種			特定外来	ニューギニアヤリガタリクウズムシ	<i>Platydemus manokwari</i>																ニューギニア原産。オーストラリア、太平洋島嶼、モルジブ等に侵入。		琉球列島、小笠原父島	森林、草原	利用に関する情報は得られなかった。		小笠原父島の固有陸貝類に壊滅的な捕食の影響を与えている。広東住血線虫の中間待機宿主となる。	特定外来、各県:沖縄	自然環境研究センター(編著)(2008)、Sugiura et al. (2006)、Iwai et al. (2010)		
重点対策外来種																																	
15	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種			旧要注意	スクミンゴガイ	<i>Pomacea canaliculata</i>																南米原産。中国、韓国、東南アジア、ハワイ等に侵入。		関東以南	水田、水路等	かつては食用とされていたこともあるが、現在は利用についての情報は得られなかった。		広東住血線虫の中間宿主となる。	要注意、W100:日本、IUCN、GISD、各県:北海道、千葉、愛知、滋賀、京都、兵庫、鳥取、徳島、熊本、鹿児島	自然環境研究センター(編著)(2008)		
16	分布拡大期～まん延期	重点対策外来種				ラブラリンゴガイ	<i>Pomacea insularum</i>																南米原産。		静岡、広島、八重山諸島	水田、水路等	利用に関する情報は得られなかった。		輸入について植物防疫法上の規制あり。広東住血線虫の中間宿主となる。	GISD	Matsukura et al. (2008)		
17	定着初期/限定分布	重点対策外来種			旧要注意	アフリカマイマイ	<i>Achatina fulica</i>																東アフリカ原産。マダガスカル、モーリシャス、コモロ、インド、東南アジア、中国南部、台湾、ハワイ、パナマ等々に侵入。		小笠原諸島、沖縄島、奄美諸島、宮古島、八重山諸島	畑地に隣接した草むらや林縁の藪等、小笠原では原生の森林にも侵入。	食用とするが、国内での生産の情報は未確認。		輸入について植物防疫法上の規制あり。国内移動について植物防疫法上の規制あり。広東住血線虫の中間宿主となる広東住血線虫の中間宿主となる。小笠原で国内希少野生動物種であるタイヨウフウトウカズラを食害する。	要注意、W100:日本、IUCN、GISD、各県:鹿児島、沖縄	自然環境研究センター(編著)(2008)		
18	定着初期/限定分布	重点対策外来種				ヨーロッパガラボヤ	<i>Ascidella aspersa</i>																北大西洋ヨーロッパ沿岸、ノルウェー～地中海		北海道南部～東北地方	水深50m程度までの沿岸海域	利用に関する情報は得られなかった。		北海道噴火湾でホタテガイ養殖に甚大な経済的被害を与えた。	GISD、各県:北海道	金森他(2012)		

No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来/旧要注意	和名	学名	選定理由	評価項目											原産地・分布	日本での分布	生息環境等	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等				
			被害の深刻度	実効性・実行可能性					定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散													
									生物	導入	競争	交雑	捕食	繁殖	気候			重要地域	人体									経済産業	利用	付着混入	
41	分布拡大期 ～まん延期	その他の総合対策外来種	/	/	旧要注意	チチュウカイミドリガニ	<i>Carcinus aestuarii</i>		/	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	地中海、カナリア諸島原産。南アフリカに侵入。	東京湾、大阪湾、伊勢湾、浜名湖、洞海湾	河口～内湾の岩礁、潟、塩性湿地。繁殖期は沖合いへ移動。	利用に関する情報は得られなかった。	-	形態形質から国内定着個体群に同属種のヨーロッパミドリガニ <i>C. maenus</i> との雑種の存在する可能性も指摘されている。知見の集積が必要。	要注意。W100。日本、各県：千葉、愛知、京都、兵庫、徳島	自然環境研究センター(編著)(2008)、土井他(2009)

【国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)

重点対策外来種																														
No	定着段階	カテゴリ	対策優先度の要件		特定外来/旧要注意	和名	学名	選定理由	評価項目											分布	問題となっている地域	生息環境など	利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠	文献等			
			被害の深刻度	実効性・実行可能性					定着可能性		生態系被害			分布拡大		重要地域	特に問題となる被害	逸出・拡散												
									生物	導入	競争	交雑	捕食	繁殖	気候			重要地域	人体									経済産業	利用	付着混入
1	国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種	重点対策外来種	/	/		自然分布域外のサキグロタマツメタ	<i>Euspira fortunei</i>		/	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	東アジア。国内では三河湾、瀬戸内海、有明海	東北～九州の太平洋岸	干潟や泥底の浅海	利用に関する情報は得られなかった。	-	外国産アサリの種苗放流に伴い、各地に侵入したと考えられ、侵入地の二枚貝に甚大な影響を与えている。	各県：鹿児島	大越健嗣・大越和加(編)(2011)